

平和で豊かな沖縄県を目指す情報誌

# 沖縄協会だより

無料

ご自由にお持ち  
帰り下さい

2025.12

No.37



## 踊子 寺井重三 作 号数：F100

寺井重三 昭和3年 石川県生

画歴：金沢美術大学卒、木下孝則、中谷龍一に師事。一水会賞、同会優賞、日展入選、同特選、同審査員、一水会常任委員、日展会員、日展評議員。

制作意図：踊子たちの、なにげないポーズの中に、訓練された美しさや、厳しさ、華やいだ雰囲気、強く心をひかれます。

額サイズ：縦×横×厚【179×148×7.5 cm】

沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会(昭和31年～47年5月)の後を受けて、昭和47年9月20日に設置された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年(2011)4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会

## 講演会要旨

# 戦後80年・復帰53年を語る



川平朝清氏

1927年台湾生まれ首里出身。昭和女子大学名誉教授。ミシガン州立大学・大学院卒業。RBCを経て沖縄放送協会会長に就任。72～83年日本放送協会、83～92年放送文化基金に在籍。2020年ギャラクシー賞ラジオ部門大賞、2022年同賞志賀信夫賞、2023年NHK放送文化賞受賞。



ジョン・カピラ氏

1958年那覇市生まれ。国際基督教大学卒業。CBSソニーを経て1988年J-WAVE開局と同時にナビゲーターに。現在、ラジオ・テレビ・ゲーム実況など幅広く活躍中。2005年ギャラクシー賞DJパーソナリティ賞、2020年同賞ラジオ部門大賞・民間放送連盟賞ラジオグランプリ受賞。

2025年10月4日、沖縄協会主催の講演会が一般社団法人東京沖縄県人会（仲松健雄会長）の共催で開催され、当協会元理事川平朝清氏と長男のジョン・カピラ氏親子による対談形式で「戦後80年、復帰53年を語る」と題してお話いただきました。

### 六三・八六・八九・八一五

#### 五三に繋げ 我ら今生く

講演会会場に掲げられた『六三・八六・八九・八一五』に繋げ我ら今生く』というクイズのような言葉、これが何かおわかりでしょうか。『八六・八九』は1945年8月6日、8月9日、広島、長崎の原爆投下の日。『八一五』は8月15日の終戦です。ところが『六三』6月23日となるとご存じの方はなかなかいらつしやらないかと思います。これは沖縄戦終結の日、日本軍の組織的戦闘が終結した日です。そして『五三』は1947年5月3日、日本国憲法が施行された日です。戦後連合軍の占領を受けた日本は1952年のサンフランシスコ講和条約によつて独立を回復しますが、沖縄は切り離されてアメリカの統治下に留まりました。講演会のタイトル「戦後80年、復帰53年を語る」の「復帰」とは、1972年、沖縄の本土復帰を意味します。終戦から復帰までの27年間、沖縄の人々にとつて非常に大きな経験になりました。

1945年3月、旧制台北高校2年生だった私は召集され大日本帝国陸軍二等兵となりました。塹壕掘りが主な任務でしたが、敗戦直前の同年8月、特別甲種幹部候補生として集められたときに私は真つ先に手を

挙げて、「私は沖縄出身であります。ぜひ真つ先に突っ込ませてください」と申し出ました。郷里沖縄が占領されたと聞いて思わず出た言葉ですが、上官に「おまえらのような弱兵の力を借りなくてもこの戦争は勝つ」と言われました。しかしその後、上官が私の所に来て「おまえらを乗せるような飛行機はもう無いんだ。」と囁きました。亡くなった方々には大変申し訳ないと思いますが、これで戦争は終わりだなと、ほつとしました。敗戦が決まり、ようやく1947年に沖縄へ帰島しました。台北で医学系の学校にいた経験と英語能力を買われてアメリカ軍基地内の診療所で検査助手の仕事に就きましたが、その検査とは、なんと性病の検査でした。まだ女の子の手も握つたことのない若者がそういう検査をしておりました。非常に厳しい時代でした。そのようななか、私の長兄、朝申（ちようしん）は沖縄民政府の芸術課長となつてラジオ局開設に携わつていました。彼の勧めでアナウンサーになり、1952年に東京でNHKのアナウンサー養成研修に参加することになるのですが、研修の最中にサンフランシスコ講和条約が発効しました。そのときに朝日新聞の「天声人語」は、幸いだったのは「2つの日本」に分割占領されなかったことだと書きました。小笠原、奄美諸島、沖縄はアメリカの統治下にあり、「日本は分断されているではないか」と強く思つたものでした。翌年、アメリカ政府の占領地救済の奨学金でミシガン州立大学に留学する機会に恵まれました。親米派を作るといふ米政府の意図があつたといわれますが、どの大学へ進むか、どの学部・学科を選ぶかについての制約は無く、学部4年間、大学院2年間の学費、旅費、生活費はすべて支給されるという充実したものでした。この資金で留学した沖縄の学生は1,000人を超えるといわれ、沖

縄の復興に大いに役立ちました。入学したのは朝鮮戦争のさなかで、アメリカの大学でも新入生は予備役将校訓練課程が必修課程でしたが、大日本帝国陸軍の軍歴を認められて免除されました。アメリカの懐の深さを感じたエピソードです。この留学で私は「MA（修士号）」と「MRS」を得ました。Mrs. Capira（カピラ氏）です。帰国後は沖縄放送協会会長として公共放送の仕事に携わることになりました。本土復帰運動が高まってきた1963年、ポール・W・キアラウエイ第三代高等弁務官が「沖縄が独立しない限り沖縄の自治は神話だ」という言葉を残しています。その場で直接演説を聞いていた私は、それももつともだと感じました。本土復帰を果たしたとしても、沖縄住民が手に入れられる自治は限られたものだということを言おうとしたのでしよう。しかし当時、沖縄側の強い反発を招きました。また、沖縄を訪れた日本政府の代表団と会談したキアラウエイは日本側から「無能なやつらには、がつんと言つてやりなさい」と言われたらしい。彼は私の所に来て「彼らは二枚舌だ、気をつけろ」と耳打ちしました。同胞である沖縄住民を無能と言う日本政府について、「君たちはどういうところに復帰しようとしているのか、よく考えるべきだ」と忠告してくれたように思います。

#### 二度と「戦前」になつてはいけない

1972年、沖縄は本土復帰を果たし、私はNHKで国際協力を担当することになりましたので東京での生活が始まります。1975年、当時皇太子殿下だった上皇陛下が沖縄海洋博覧会開会式でお述べになる挨拶文原案について宮内庁から意見を求められ

たので、沖繩戦の犠牲性について触れていなかった点について異議を唱えましたが変更されませんでした。しかしこの訪沖時に起こった「ひめゆりの塔事件」の後に起きた皇太子談話の中に沖繩戦の犠牲者やその遺族にお心を寄せせるお言葉がありました。訪沖前に外間守善先生のご進講をお受けになり、琉歌をお詠みになるなど、上皇陛下の沖繩に対する思い、沖繩文化に対する深い造詣を感じました。

プライベートでは妻ワンダリーとの間に3人の息子に恵まれました。中学2年生のときに東京の学校に編入した長男(ジョン・カピラ氏)。クラスメイトは沖繩復帰運動やベトナム戦争の悲惨さを理解していて、本土復帰運動で歌われた「沖繩を返せ」を歌える子がいましたが、社会科学論に「沖繩に放送局があるのか?」と訊かれるなど沖繩に対する認識のギャップに驚く、という経験をしました。復帰53年を迎えて、沖繩をとりまく状況は変わったでしょうか。故安倍晋三元首相が「戦後レジームからの脱却」というキーワードを掲げた時、戦後の十字架をずっと背負い続けてきた日本がアメリカとの関係をフラットにして、地位協定を見直して、真の独立を勝ち取る機運が生まれたのかと思いましたが、そうではありませんでした。そして近年、南西地域で存在感を拡大している中国の脅威について語られています。このようなときにこそ沖繩の歴史に目を向けてみたいと思います。19世紀、英国海軍大佐バジル・ホールが琉球王国に來航し、その時の記録を航海記として出版しました。彼は帰国途中にセント・ヘレナ島に幽閉中だったナポレオンを訪問し、琉球が「武器を持たない国」であると報告し、当時の西洋社会に軍事に頼らず外交を行う海洋国家の存在を伝えました。

安全保障、日米・日中関係をどう捉えるのか、平和をどのように実現するのかというのは難し

い問題です。日本政府により南西地域の防衛体制が強化され、そして沖繩には米軍基地が存在し続けています。だからこそ、せめて同じ敗戦国のドイツやイタリア並みの地位協定に改めていただきたいと思えます。実際に交戦をしたことがない国は非常にまれです。二度と「戦前」になつてはいけません。日本は永遠に「戦後」という表現を使うことができる国でありたいと願っています。

#### ◆ 事務局より ◆

講演会受講者アンケートには「占領時代の沖繩の様子について初めて知ることができた。」「沖繩と東京、日本と他国、意見が違ふのは当たり前のこと。違いを受け入れられるようになりたい、という気持ちになった。」「平和の実現・維持につとめたいと心から思った。」といったご意見・ご感想が寄せられました。ご参加下さった皆様に心より御礼申し上げます。



講演会のようす

### 第60次沖繩豆記者交換事業への協力

沖繩県下の小・中学校より選ばれた豆記者が取材活動や交流活動の体験をとおして社会に対する視野を広げ、思いやりのある心豊かな児童生徒を育てる第60次沖繩豆記者団(小学6年生から中学3年生までの児童生徒35人と引率4人、主催〓沖繩県豆記者交歓会)が7月29日から8月1日にかけて東京都内で取材活動を展開した。本会はこの取材活動先との連絡調整などに協力した。7月29日、羽田空港に到着した沖繩豆記者の一行は、國場幸之助衆議院議員の協力を得て衆議院議員会館食堂で昼食をとった後、国会議事堂を見学した。30日、赤坂東邸を訪れ、秋篠宮皇嗣同妃両殿下、佳子内親王殿下並びに悠仁親王殿下にご接見を賜った。豆記者を代表して名城陽太さん(南風原町立南風原中学校3年)が挨拶し、豆記者一人一人に4方から温かいお言葉をいただいた。同日午後には首相官邸を訪れ、石破茂首相(当時)を敬訪問した。大ホールに整列した豆記者たちは「ていんさぐの花」の合唱で石破首相を出迎え、同席した伊東義孝沖繩及び北方対策担当大臣(当時)が豆記者を紹介した。続いて糸数莉衣愛さん(読谷村立読谷中学校3年)、金城美弥子さん(読谷村立読谷中学校2年)の2人が琉球舞踊「かぎやで風」を披露し、豆記者を代表して嘉手苺万葉さん(那覇市立松島中学校1年)が「豆記者活動を通して得た積極性や自立した心を将来に生かし、取材活動で感じた驚きと感動を、ひとりでも多くの人に伝えたい。」と挨拶した。石破首相は豆記者へ激励の言葉をかけ、記念撮影を行った。続いて内閣府沖繩担当部局がある中央合同庁舎8号館講堂に黒瀬敏文審議官を訪ね、取材活動を行った。質疑応答では、OIST(沖繩科学技術大学院大学)で行われているマイクロプラスチックの研究、県内の環境保全など様々な分野について質問が出された。黒瀬審議官は、これらの質問に対して沖繩担当部局が取り組んでいる対策について映像による資料を使って丁寧に答えた。7月31日、豆記者一行は世田谷区役所を訪れ、保坂展人世田谷区長、知久孝之教育長を敬訪問取材し、「世田谷区の九つのビジョン」などについて質問が出された。区議会議場では、石川ナオミ区議会議長、羽田圭二区議会副議長を訪問取材し、基本計画「街なかに多様なみどりを作り育てる」などについて質問し、丁寧な説明を受けた後、世田谷区の記念品を受け取った。続いて同区立郷土資料館を見学し、熱心な取材活動を行った。また、夕方には在京の沖繩県出身大学生8人と懇談会を行った。8月1日、明治神宮などを見学したのち、無事に4日間の活動日程を終了し、那覇空港で解団式が行われた。

★戦後80年「糸満平和祈念コンサート」

8月17日、戦後80年「糸満平和祈念コンサート」(コンサート実行委員会主催)が開かれ、100人余の聴衆が沖繩平和祈念堂に訪れた。このコンサートは地元糸満市の出身で声楽家の宮平真希子さんが中心になって始められ、今回で8回目。宮平さんのソプラノにバイオリンの宮良美香さん、エレクトーンの益井理沙さんが「アメージング・グレイス」「アヴェ・マリア」や「月ぬ美しや」「ていんさくぬ花」などを演奏した。美しい曲の数々に聴衆は魅了された。



糸満平和祈念コンサートのようす

★ライオンズクラブ国際協会337D地区・地区ガバナーによる記念植樹

9月3日、ライオンズクラブ国際協会3

37-D地区の脇黒丸一典地区ガバナー一行による地区ガバナー公式訪問の記念植樹が堂宇前庭で行われ、脇黒丸地区ガバナー含む11人の会員が参加した。植樹に先立ち参加者全員で黙とうを行い、沖繩戦全戦没者へ鎮魂の祈りを捧げた。次に脇黒丸地区ガバナーと同地区沖繩Rの上原義信第二地区ガバナーによるハウライカガミの植樹、つづいて「平和の鐘」の献鐘、堂内にて沖繩平和祈念像を参拝した。そのあと、平和祈念像の使者として毎年慰霊の日に放蝶しているオオゴマダラ蝶を参加全員によつて放蝶された。



ライオンズクラブ国際協会337-D地区ガバナー公式訪問一行

★「大好き沖繩」の会・沖繩ツアー一行の来堂

11月4日、全国の沖繩ファンが集う投稿雑誌「大好き沖繩」の会・沖繩ツアー一行11人が沖繩平和祈念堂に訪れた。代表・出口富美子さん(当協会評議員)の案内で訪れた一

行を当協会新垣専務理事が出迎え、山田眞山画伯と沖繩平和祈念像について説明を行った。



「大好き沖繩」の会ツアー一行

★沖繩平和祈念堂改修工事に伴うご寄付のお願い

沖繩平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様に諸経費に対するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。ご連絡いただきましたら、ゆうちょ銀行専用の振込票を送付させていただきます。また、インターネットを利用してのご寄付も可能です。Syncable(シンカブル)というプラットフォームにアクセスしていただき、団体を探すページから「沖繩協会」で検索してください。公益財団法人 沖繩協会

【電話番号 03-6231-1433】

【FAX:03-6231-1436】



syncable(シンカブル)

写真で見る戦前の首里城 Vol.2

沖繩協会には、沖繩関係図書約5,800冊を所蔵する資料室(沖繩平和祈念堂管理事務所二階)があり、その中に『沖繩記録・写真集』1939年(昭和14)4月・5月撮影(撮影者不明)が収蔵されている。2026年の秋に復元を予定している首里城正殿にちなみ、その写真集から戦前の首里城とその周辺をシリーズで紹介する第二弾。



歓会門・裏側



龍門



瑞泉門



瑞泉門・扁額

